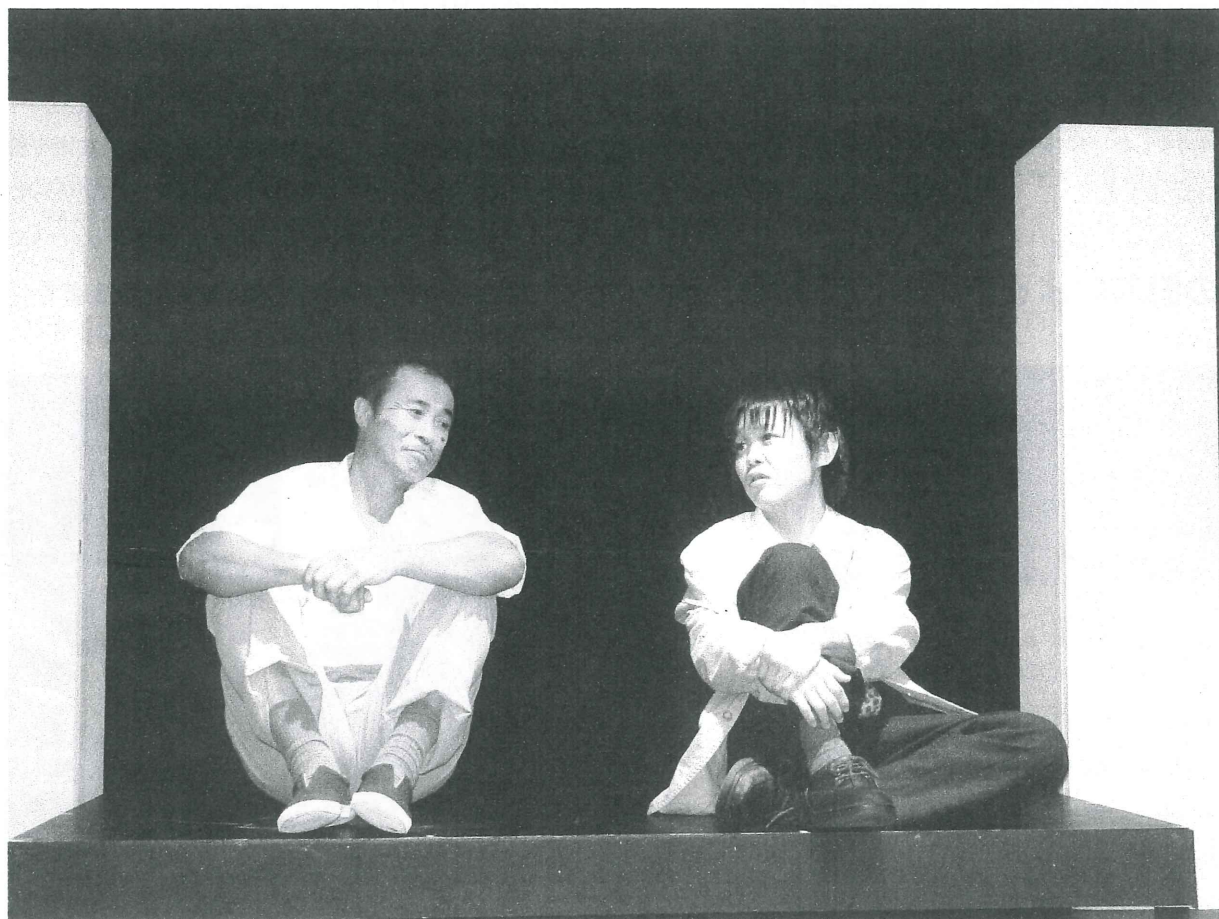


DRAMA かながわ

《神奈川県演劇連盟》 ★横浜市中区福富町西通り52 TEL045-261-4866

演劇連盟初の試み 芝居塾成功への道



た。高校生は、一定期間、社会人と一緒に芝居づくりを体験することにより、今までより高度な技能を修得する機会となり、また、担当劇団にとっては、劇団の活性化と将来の人員確保の足がかりになればとの期待もありました。

新年度の始まる4月に県内の高校を中心に青少年センターが募集をかけ、今回は

第1回高校生のための芝居塾 終了報告

劇団横浜にゆうくりあ 代表 坂下優一

今年度から、神奈川県立青少年センター(以下、青少年センター)と神奈川県演劇連盟(以下、県演連)とが立ち上げた新たな企画「第1回高校生のための芝居塾」が8月25日、26日の公演を終え、無事に全日程を終了しました。第1回目の担当劇団である劇団横浜にゆうくりあ(以下、にゆうくりあ)を代表しまして終了の報告をさせていただきます。

この企画は、青少年センターの公募により集まった県内の高校生20名程度を対象に、県演連に加盟しているうちの1劇団が企画を担当し、その高校生たちを受け入れ、1つの芝居を創っていく試みでし

17名の高校生が集まりました(うち、2名が途中離脱)。5月ゴールデンウィーク明けの「初顔合わせ」から8月25日、26日の本番まで、3ヶ月間半の期間、稽古を行いました。

稽古スケジュール組みがひとつの課題

稽古スケジュールを組む上では、高校生と劇団員の稽古をどうするかがひとつの課題でした。劇団員は、平日夜の稽古を定例としてきました。しかし、高校生を夜間稽古させるわけにはいかないという考えもありました。考慮の結果、土日の昼間をメインの稽古、平日夜に劇団員だけでできる稽古を設定しました。そのため、稽古期間中の土日はほとんど埋まってしまう、とてもハードな日程になってしまいました。日程の最後のほうは、夏休みの集中稽古をしたり、夜に残っても大丈夫な高校生も稽古に参加してもらったりして、稽古量を



確保しました。終わってみて考えると、夜に残れる高校生が思ったよりも多かったのもう少し早い段階から夜の稽古を入れても良かったのかなという感じはあります。

青少年センターの協力によるワークショップも開催

日程の中には、芝居の稽古だけではなく、青少年センターの全面協力による装置製作・音響・照明のワークショップも開催されました。但し、今年の場合は、開催可能な日程が高校生のテスト期間等と重なってしまい、少数の参加者となってしまいました。次年度からは、参加者のスケジュールに合わせたワークショップの開催が必要であると感じました。

今回の企画において、稽古場の提供という点でも青少年センターには大きなご協力をいただきました。青少年センターは、主催であるので「ご協力」という言い方はそぐわないかもしれないが、本番で使用する多目的プラザの稽古利用やその他施設の調整など、稽古環境としては申し分の無い環境で3ヶ月半を過ごすことが出来ました。常設の稽古場を持たない劇団としては、何よりも助けになりました。

枝葉のストーリーを組み立てやすい演目に

演目についても、工夫をしました。にゅうくりあは、20年以上、ヨコハマを舞台・イメージ・テーマとしたオリジナル作品を展開し続けている劇団のため、今回の演目もオリジナルであることは、決めていました。そして、高校生の質や人数が分からない段階で作品を決める都合上、劇団員が最低2人いれば根幹が構成でき、枝葉のストーリーを組み立てやすい作品を過去の作品から12年前に上演した「ガス灯の下で君を待とう」選定し、企画に合うようリメイクを行ないました。お客様からは「企画の趣旨からして、高校生を主役に使っては？」との感想もありむしろその意見には賛成ですが、やはり、ゴールドエンウィーク明けまでどのような高校生が来るか分からない状況では、致し方ない選択であったと思います。次回以降の担当劇団がどのように対

応するのか、注目したいと思っています。

今後のための課題

今回、企画を進めていくにあたり、今後のための課題のようなものをいくつか発見しました。まず、参加してくれた高校生の「質」は高いと思ったのだが、それ故か、バイトや演劇部や学校行事など、かなり多くのものを抱えていたりして、中には稽古への欠席・遅刻が多い高校生も少なくありませんでした。また、稽古中の態度などについても社会人から見ると「どうかな？」と思われる行為も時折、見受けられ、ストレスを感じる劇団員もいたようです。脱落防止のため、最初に厳しくしなかったのが良くなかったのかもしれない。次回以降の担当劇団には参考にさせていただきたいと思います。

本番に向けて、稽古を進めてゆく中で高校生たちの演技技術や稽古に望む姿勢が変化してゆくのは感じられて、特に夏休みに入ってから高校生たちの成長は眼を見張るものがあり、非常にワクワクさせられました。稽古場の外でも、質問や議論があつたりして、芝居づくりに関して各々が考えたり悩んだりしてくれました。



全員が少なからず何かを持ち帰ってくれたと確信しています。あとは、数年後でも良いので、彼らと一緒にもう一度芝居を打つことが出来たら、今から楽しみにしています。高校生の友達が一気に増えたので、当分は彼らの芝居行脚で忙しくなりそうです。

— アンケートより抜粋 —

●初めてお芝居をみました。自分と同じシなのに、こんなにも違うのかと思いました。自分自身をちゃんともっているからこそ、あんなに迫力のあるお芝居が出来るんだとろう・・・と感動しました。きっと、自分の夢の第一歩を体験できた高校生は凄いなと思いました。(高校生、男、横兵衛)

●今回の公演で、人はお金ではなく心の中にあるものの方が大事と言うことを改めて感じさせてもらいました。私も一回だけ演劇をしたことがあるのですが、同じ高校生とは思えないほどすばらしかったです。これからも頑張ってください。(高校生、女、他)

劇団横浜にゅうくりあ

『ガス灯の下で君を待とう』

作／泉谷渉 演出・吉浜直樹

於：青少年ホール・多目的プラザ

2007年8月25日(土)26日(日)

今回の「横浜にゅうくりあ」の公演には、1つの特徴があった。それは高校生のための「芝居塾」の第1回公演として舞台上に載せたことだ。高校生が劇団員と一緒に1つの芝居に役者あるいは裏方として参加。一から演劇の作り方を学んでもらおうという実験的な公演だった。この新しい試みは、横浜にゅうくりあの指導員の下で、彼らが舞台上で伸び伸びとした演技を見せたことや、幕が下りた後のなんとも言えぬ彼らの清々しい笑顔から言って、まずは素晴らしいスタートを切ったと言ってよい。

この芝居の登場人物は18人。田舎から都会・横浜に金儲けに飛び出す主役の若者や仕事の出来るOLらは劇団員が演じたが、高校生も生徒役のほか会社員、部長などの役もこなした。ときには劇団員を食わんばかりの堂々の演技も楽しめた。このため、いい意味で言

えば、劇団員なのか高校生なのか分からない登場人物もいた。劇団員は4人だけで、あとはみんな高校生だと終演後聞いて驚いた。

芝居は、学校や会社での人間関係を通じ、友達とは、友情とは、絆とは何かと問う。そして最後に「あなたは人間として変わらないもの、根っ子はありますか？」と訴え掛ける。最後のシーンで、根っ子がなく「変わってしまった」主役の若者の周りにいた人間が一人また一人と去っていき、スポットライトの中で、若者が崩れ落ちていく場面に、私は胸が張り裂かれそうになった。

劇団員と高校生が1つの芝居を作り上げていくには、色々な意味がある。演出の吉浜氏は「芝居作りはバトルだ、そこから生まれると高校生たちに教えたつもりだ」と言った。ある高校生は「芝居塾を通じて、台詞の解釈なんかでけんかすることの大切さを学びました。学校ではこんなにけんかしませんから」と私に話してくれた。以心伝心、打てば響く一もしそうであるならば、芝居塾を続けなければいけないだろう。

評者：一花徹(劇団きさく座)

ドラマ神奈川劇評 担当一覧 2007年10月13日から12月23日

- '95年5月号ドラマ神奈川第3号より抜粋 -

まず 視合うことから 編集部

県演劇連盟は何を主な課題にしているのだろうか？県演劇連盟の規約によると「よりよい創作活動の出来るよう、加盟団体相互の交流をはかり」「幅広い県民に対して演劇を普及する」ことを目的にしている。

創造集団として、それぞれの劇団は精一杯の舞台を創っている。

情熱を傾けて創られる舞台はきっと学ぶこと、刺激になることが多いに違いない。また、私たちの交流は、まずお互いの作品を観合うことから始まる。……………互いの意識をこえ、互いの創造にふれながらの、時には激しい討論を含む交流があつてこそ、演劇連盟らしい創造的な交流なのではないかと思う。



ドラマ神奈川劇評担当表

| 担当劇団 | 出演劇団 | 作品名 | 公演会場 |
|-------------|-------------|---------------|-------------------|
| 京浜協同劇団 | G/9-Project | 「マジシャン」 | ST スポット |
| 横浜小劇場 | 劇団ひこばえ | 「C i c a d a」 | 青少年センター多目的プラザ |
| 劇団蒼生樹 | 劇団川崎演劇塾 | 「八月のシャハラザード」 | 青少年センター多目的プラザ |
| 劇団葡萄座 | 劇団こゆるぎ座 | 「又左衛門切腹」 | 小田原市民会館ホール |
| 劇団河童座 | 劇団きさく座 | 「しんしゃく源氏物語」 | 青少年センター多目的プラザ |
| 劇団横浜にゅうくりあ | 劇団麦の会 | 「第4回麦畑」 | 青少年センター多目的プラザ |
| G/9-Project | 劇団蒼い群 | 「煙が目にしみる」 | 横須賀市立青少年会館 |
| 劇団ひこばえ | 劇団かに座 | 「海と日傘」 | 関内ホール小ホール |
| 劇団麦の会 | 劇団「横綱チュチュ」 | 「WHITE DOLL」 | 杉田劇場 |
| 劇団かに座 | 京浜協同劇団 | 「巨匠」 | スペース京浜 |
| 劇団「横綱チュチュ」 | 劇団河童座 | 「わしゃ くっちょらん」 | 横須賀市立青少年会館・相鉄本多劇場 |
| 団のぼる | 劇団葡萄座 | 「11匹のねこ」 | テアトルフォンテ |
| 劇団蒼い群 | 劇団蒼生樹 | 「からくり栗工門」 | 青少年センターホール |
| 劇団こゆるぎ座 | 劇団蒼生樹 | 「からくり栗工門」 | 青少年センターホール |

横浜市栄区に誕生した 「シニア演劇ワークショップ」

横浜市本郷地区センター 鳥海由美

演劇はだれでもできる・・・

この集団は、よく笑う!

発表会場。役者は上下に分かれて客入れを待つ。幕開き、前に乗り出さんばかりの背中が、わくわくした心の弾みを感じさせる。年齢も服装もバラバラな「シニア演劇ワークショップ」で出会った仲間たち。「芝居って、するも、観るも凄く楽しいんだ」と当たり前前の感動が蘇る。役者としては新人だが、人生においては先輩である。芝居へ初挑戦する純粋な姿は、指導者団のぼる氏はじめ関わるスタッフ全員に「芝居ができる楽しさ」を改めて実感させてくれたひと時である。

シニアの人生だって夢がある・・・

企画が始まった

平成 17 年度に栄区 20 周年記念事業「さかえキッズ劇場」が始まり、芝居経験のない小中学生は演出団のぼると地元劇団ぼかぼかのスタッフの協力で感動のミュージカルを上演した。子どもたちや若い家族の変化に感動を覚え、彼らの何十年後の人生へ夢を託す楽しいものだった。が、自らもシニア世代であり、歩んだ人生への答えを見つ



けるためにも、役者未経験の大人が、大人の言葉で、今を夢見る芝居創りに駆り立てられた。

昔は芝居が生活に生きていた・・・

発表会をやろう

栄区の地元青年団が演じる奉納芝居(昭和 27 年頃)の写真がある。芝居が身近にあった時代。本郷座という昔の芝居小屋にも近い本郷地区センターの自主企画として、一回のつもりで 2007 年 1 月全 9 回で「シニア演劇ワークショップ～栄は、今も昔も芝居好き～」が始まった。50 才以上経験不問で応募者はいるのか? 朗読好き、生涯学習の関係者などに声をかけ、結果 20 人(男 3 人)。人前での発表会など、当初は言い出すこともできなかったが始めてみれば予想外のエネルギー。『泣いた、笑った 弁天小僧』を 60 人ものお客さまの前で発表できたのは、幸運な誤算。

日常を壊せ!・・・弁天小僧の口上は妙薬?

次の上演を期待するお客様に後押しされ、間髪空けず、5 月から全 10 回の予定で、「シニア演劇ワークショップパート II」を企画。今回は 1 期生 10 人、2 期生 6 人で 7 月の発表会を見据えてスタート(男 4 人)。「日常を壊せ!」を目標と言うや、「もう壊れてるわ(女 67)」と答える 1 期生。1 期生刺激され、2 期生も「ゴキブリ!」なんて課題にも、全員が稽古場の隅にガーンと傾れ込みもがいては爆笑。人生経験や固まった概念を壊すって大変なことのはず。弁天小僧で恥ずかしさを吹っ飛ばしたら自前の口上作り。「言いたい事が言えるのも、悪事はやらねえ納税者(男 72)」だったり、「しらけた亭主の視線をよそに、今じゃ女優の気分も最高(女 67)」、「亭主にほの字(女 59)」、「しがねえ男が現れた(女 60)」とうそぶく妻あり、「下手は承知でやってはいるが(女 65)」「今じゃ役者で板の上(女 72)」の夫あり。発表会は自前で作詞や作曲、サクソ(女 66)、ピアノ(女 53)は生演奏。「何もかも初めての経験で大変でしたが、今となっては楽しいことしか覚えていません。(女 68)」。芝居経験のないシニアが、安心して心を開いていけるのは、自らも心をさらしてして情熱を語る演出家団のぼる氏の手腕によるものだ。また、1 回目は恥ずかしさで消極的だった方も、「練習を重ねるうちに、体と心を柔らかくしてゆくことが、どんなに気持ちの良いものであるかを実感!(女 61)」「自然に素直に、ことば・体・心が表現できたら、楽しいでしょうし、エンドレスな日常生活も、より自然体で過ごせるでしょうか。女(58)」と次回への意気込みも感じる

シニアも一人ひとりが 自立をめざす

役者だけではなく、本を書いたり、衣装や道具を作ったり、音楽を演奏したり、制作など、得意なこと、やってみたい事をたくさん発見して欲しい。台本作成前に劇団ぼかぼか代表木暮寿子さんが講師



となり、テーマ作りから箱書きの作り方や台詞などを参加者みんなで考える時間を作った。演劇は何でもありだよ。人生経験は武器でもあるが足枷にもなる。視野を広げて自由に冒険できるといいね。2 回目の発表会。自治会のおまつりに参加したことを契機に劇団をつくるというフィクション。『変身・変心また変進～シュワッチ!～』というタイトルも台本を読んで、みんなで大爆笑しながら決めた。「テレビで見る芝居もちょっと見方が変わったかな? 芝居ってきつと、もっともっと深くて難しいんでしょね。(女 66)」本当に!「何よりも嬉しかったことは、一人一人を大切にしてくださいました事です。(女 55)」と自覚と充実感も存分に味わう。本番は、100 人満席のお客様に見守られ、大入袋。不安そうだった家族のみなさんも感激、若い演劇関係者も、「いくつになっても遅すぎることはないんだね」と感動。みんなよく笑った。

すごいね!..

いよいよシニア劇団旗揚げ

参加者の熱い思いは、消えることなく、「これでは不完全燃焼のままです。女 67 歳」の声も出た。「人まかせはダメだよ」と団のぼる氏はきっぱりと言う。集団の良さを生かし、地域にあたたかい舞台をとどけるにはどうしたらいいのか? ここから自分探しの旅が始まる。準備会では、代表・会計・制作など役目を決め、会費を集めて9月13日に新たに立ち上がるはず。

ウルトラマンだって、3分たてば宇宙に帰り、出直して来る訳だから、何度でも挑戦しよう! 笑顔の眩しいシニアのみなさん、ジュワッチ!

「参考資料」Vol I コース 2007・1月25日～3月22日(毎週木曜12回)発表会「泣いた、笑った、弁天小僧」演出・指導:団のぼる/台本:木暮寿子 2007/3/22 横浜市本郷地区センター大集会室にて

Vol II コース 2007・5月10日～7月19日(毎週木曜12回)発表会「変身・変心また変進～ジュワッチ!～」演出・指導:団のぼる/台本:木暮寿子 2007/07/16 横浜市本郷地区センター大集会室にて

芝居を観る

劇団蒼生樹

『萩家の三姉妹』

作/永井愛 演出/濱田重行

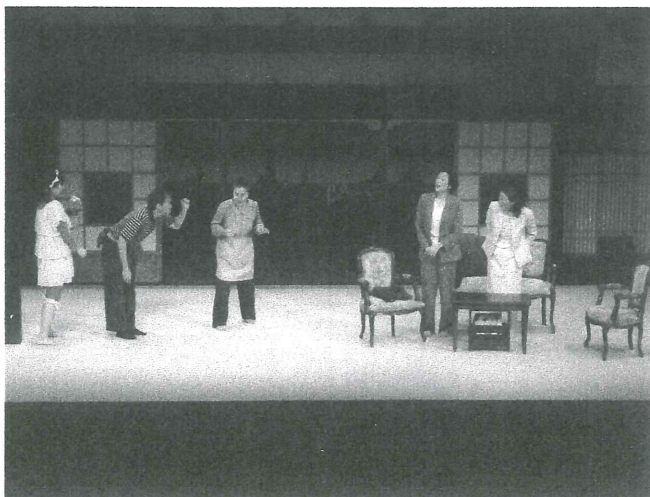
於:テアトル・フォンテ 2007年7月6日(金～8日(日))

舞台は地方都市にある旧家。そこで育った三姉妹。フェミニズム論を大学で教える長女、専業主婦の次女とフリーターの三女。三姉妹それぞれの性や人生に対する考えが表現された面白い作品であった。

休憩を挟んで3時間近くもの長い芝居であったが、テンポの良い展開で飽きることなく、さすが蒼生樹さんらしいレベルの高い芝居を観させて頂いた。特に、長女と大学教授との間で、二人の過去の不倫関係を共同研究課題として取り上げようとして議論しているさまは、内容の可笑しさとテンポの良さで、ついつい笑いに引き込まれてしまった。ただ、フェミニズムとかジェンダーといった専門用語を使った自説を語るころでは、言葉の難しさと逆にテンポが速すぎることから、内容について行けなかったのが少し残念に思う。

大道具については、萩家の座敷の場面ではパネルに絵を描いたものを吊ってますというのが見えてちょっと残念に思ったが、裏庭への転換を見てなるほど納得。終演後の舞台挨拶で転換風景を見せるのも面白いと思った。少し難を言えば、音響効果にもう少し工夫があっても良かったかなと思う。オープニングのBGMがぶつりと切れた感じがあったし、次女の旦那が鳴り子を鳴らしながら女性二人を引き連れて踊りまわっている場面では、鳴り子の音も今ひとつで盛り上がらない中、3人が無理やり盛り上げようとしている感じがしたので、何か盛り上がる音を入れても良かったように思う。

評者:村田好行(劇団川崎演劇塾)



劇団河童座

『エレファント号出発進行!』

相鉄本多劇場ファミリーシアター 201公演

於:相鉄本多劇場 2007年8月24日(金)～26日(日)

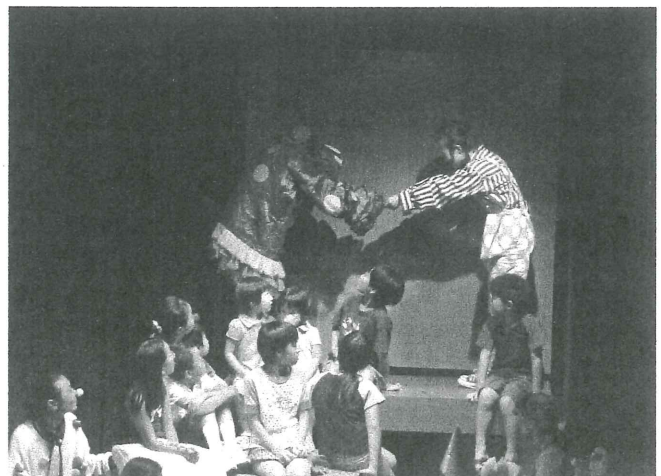
(観劇日 2007年8月26日 13時)

夏休みこの時期、劇団河童座と相鉄本多劇場が提携して行うファミリーシアターは今年で14回を迎える息の長い企画。

開演前から観客の子供たちと俳優のお遊び交流で意気が上がっている。この遊びはやがて舞台を進める上で大事な役割をもつ。舞台の上下の台に二人の進行役。ある時はゾウになりその影絵をパネルに映し出して視覚的な面白さも見せていく。舞台装置は背景を回転パネルにし、組みあわせる箱台は舞台を立体的にみせる。

お話は太平洋戦争末期、動物園でも危害を与えるとして多くの動物達が殺されていく時代。サーカス団も戦時の食糧難から人気者のゾウを手放すことになる。譲り受けた動物園もやがて軍の指揮下で危険な猛獣を殺害するよう命じられる。動物達の命を守り抜こうと園と飼育係りの命がけの頑張りも軍の命令に逆らうことは許されない。やがて終戦。生き延びたゾウに会いたい一心で焼け跡の子供たちはエレファント号を走らせゾウに会いに出かける。ここで遊びなれた観客の子供たちが舞台上上がり子供会議に参加、やがて列車を走らせる(ロープの列車ごっこではあるが)ゾウとの喜びの出会い。子供たちの歌声は懸命にゾウを守った動物園の飼育係の喜びと重なり平和の尊さを舞台に響かせる。園長の俳優鈴木村は老齢ながら必死で動物達を守り抜こうと生きるすがたを好演。衣装の時代考証など不十分さの指摘はある。舞台からは「戦争は人間だけではなく動物も昆虫も木や草までも犠牲にしていく、皆さんも一緒に考えてほしい」と呼びかけていた思いがする。

評者:団のぼる



平塚市民演劇フェスティバル

伝えるのは言葉ではなく「心」

劇団きさく座 高橋行恵

きさく座と演劇フェスティバルについて

平塚は横浜から東海道線の下りに乗って約 40 分。七夕が有名ですが、ベルマーレのサッカーや箱根駅伝の通り道あるいは競輪によって、どちらかと言えば「体育会系」の街というイメージが強いかもしれません。おおかたの平塚市民にとってもそんな感じだと思います。

この平塚で最初の市民演劇フェスティバルが開催されたのが 2002 年の秋。市内の劇団の合同発表会という形式がここから始まるのですが、その前に私たちきさく座のことについて説明させていただきます。



今回からスタッフはお揃いの赤いはっぴを着ています

「劇団きさく座」結成

1997 年 4 月に財団法人平塚文化財団主催の「ワークショップ演劇」が開講され、8 月にその受講生により「木の咲くとき」（作：坂本真貴乃、演出：渾大防一枝）を上演しました。このときのメンバー有志によって現在の「劇団きさく座」が結成されました。きさく座という名前は、この初演の作品名から付けました。

演劇ワークショップときさく座は並行して活動していましたが、21 世紀を迎えて演劇ワークショップは「平塚に市民演劇を」という所期の目標を達成したということで閉講となり、受講生がきさく座の舞台に合流して 2001 年 4 月に「パートナー」（作：木庭久美子、演出：渾大防一枝）の上演をもって活動は終了しました。

ワークショップの終了は、受講生が中心となって発足したきさく座にとっては、ある意味独り立ちということでもありました。

平塚で芝居の公演会場となるのが市民センター 1,400 席、中央公民館 700 席の 2 会場。大きな会場なので場所を取るだけでもお金がかかり、当時の私たちにとって高いハードルになっていました。そこで文化財団の協力を得て、周辺のアマチュア劇団に呼びかけて、2002 年 8 月中央公民館で第一回の市民演劇フェスティバルの開催にたどりつきました。そのときの出演団体は、私たちきさく座と、劇団カレーライス、シアター詩貴舞の 3 団体でした。

そのとききさく座が上演したのが今回と同じ「しんしゃく源氏物語」（作：榊原政常、演出：西山慈恩）でした。

平塚が「演劇の街」になる

この市民演劇フェスティバルによって平塚がいきなり「演劇の街」になったわけではありませんが、小さな変化はあったと自負しています。少なくとも平塚でアマチュア演劇の舞台を見る機会が増えたことは間違いありません。秋のフェスティバルを恒例の行事として毎年見に来るお客さんも見かけるようになりました。合同の発表会ですので、目当てにしてきた劇団以外の舞台も見ることができ、「思わぬ収穫」があるかもしれません。年末年始には地元ケーブルテレビで全作品を放送するので、偶然見た、という方から感想をもらうこともあります。

変化は客席だけではなくありません。演劇フェスティバルを発表の場として新しく参加する団体も増えてきました。いきなり自主公演をするのにくらべて会場費、宣伝費などの負担が軽くて済み、集客もある程度見込めますから、劇団の存在自体を知ってもらうのにもいい機会になっています。3 回目からは平塚市の大学交流事業として東海大学、神奈川大学の演劇サークルも参加するようになり学外での発表の場となっています。このフェスティバルがあったから発表する機会を得た劇団もあるかもしれませんし、これからフェスティバルに参加することを目標にしている人もどこかにいるかもしれません。当日配るパンフレットに他の公演の宣伝や、団員募集のチラシがたくさん折り込まれるという当たり前のことが、平塚でも行われるようになりました。

いままで 6 回続けてきたなかで毎回参加してきたのがきさく座とカレーライスだけですが、演劇フェスティバルの存在を知って参加した団体がそれだけ多いということです。1 回だけ参加という団体も多いのですが、芝居を続けるということには稽古や運営やさまざまな難しさがついてきます。せめて都合のついたときに芝居を作って見てもらおうという芝居へのかわり方があっていいと思います。

ひらつか発☆演劇祭

今回の第6回は、いままでで一番多い6団体が出演しました。まずは平塚でこれだけの数の演劇をする団体を集めることができたことを喜びたいと思います。とにかく芝居好きが集まって発表の場を平塚に確保した、このことがいままで演劇フェスティバルを続けてきたいちばんの成果です。

とはいうものの、平塚の演劇は動き始めたばかりです。

上演後のこれからの宿題

芝居の世界に出会って、演じることの面白さに目覚め、仲間と協力して舞台を作り、見に来てくださったお客さんに披露することが楽しくて仕方ない、いまはそれだけで一杯。今回の演劇フェスティバルの作品の多くがその段階です。今年のチラシは「平塚発☆演劇祭」としましたが、平塚（つまり平塚の私たち）が世界に何を発信するのか、正直なところ、それを考えることは上演後のこれからの宿題です。

演劇の活動を社会にどう活用するかということにはいろいろな考え方があると思いますが、私たちは演劇が社会に及ぼす影響を考えることより、まずは普段の生活で経験していることを芝居に生かして見ることを考えてみたいと思います。

「言葉」のみに頼り過ぎることの危うさ

今回は大きな会場で客席にわかりやすく伝えることを意識した芝居が多かったように思えます。たしかに会場の大きさからして相鉄本多やS Tスポットのように演劇に適した場所ではありません。しかし声を大きくして、身振りを大きくして、逆に伝わらなくなることも、残念ながらあります。言葉は大切ですが、普段の生活は言葉のやり取りだけで成立していません。身体や気持ちの様子などで、何も話さなくても伝わるのがよくあります。大切なことほどそっと話すことの方が多いかもしれません。伝えたい心があって、その手段の一つとして言葉があるぐらいのつもりでいれば、同じ台詞でもっと豊かな表現ができると思います。台本の一字一句に忠実であろうとして文字として書かれた「言葉」のみに頼り過ぎることの危うさを、平塚の役者は遅ればせながら思い知ることになるでしょう。

文化財団やスタッフの皆様、そして会場に足を運んでくださった多くのお客様に育てられて、平塚の秋の行事として定着することができました。こういう行事は、ある意味では「開催したら成功」と言われるものですが、今後回数を重ねることによって、多くの平塚市民に演劇フェスティバルのことを知ってもらい、身近に芝居があることの楽しさを感じてもらえたらと願っています。きさく座も一緒に成長しましょう。

9月23日（祝）平塚市民センター
劇団湘南アクターズ
「素敵な花の咲かせ方」
作：金津泰輔、演出：郷田ほづみ
劇団きさく座
「しんしゃく源氏物語」
作：榊原政常、演出：高橋行恵



劇団きさく座

9月29日（土）平塚市中央公民館大ホール
大原ドラマファクトリー
「old fashioned partner」
脚本：小塚早希子、演出：荒木恵
劇団カレーライス
「However with vampire」
出演：田中裕介、西村穰



大原ドラマファクトリー



劇団カレーライス

9月30日（日）平塚市中央公民館大ホール
東海大学総合アートコピトカバ団
「蜀漢奇人+1（しよっかんきじん ぶらすいち!）」
作：坪井賢明
ワークショップ「ミュージカル入門」
「亀の不思議な塚」
作・演出：宮越洋子

演劇資料室より

—小中校生の利用が拡大している—

小中高校に「演劇資料室」の存在が知られるようになって利用者が拡大してきた。

本年1月～8月、小中校生と教員の利用者数をまとめてみた。

小中学校:教員 45名、児童生 56名 学校数 52校

高等学校:教員 6名、生徒 240名 学校数 62校

上記には県外からの利用者を含む(小中学校:千葉山武市、墨田区、愛知春日井市、新潟上越市 4校、高等学校:静岡三島市、富士市、沼津市、山梨甲府市、千葉松戸市、東京小平市、茨城霞ヶ浦市、8校)

利用者の拡大には青少年センターで開催される中学校、高等学校の演劇講習会、神奈川県高校演劇発表会、関東ブロッグ大会参加者への青少年センターと中学校、高等学校演劇連盟のリーダーの先生の積極的な利用呼びかけの効果も大きい。

小中学校の場合は児童、生徒の利用もあるが教員の利用が多い。

演劇資料室の開設当初は高校演劇向けの蔵書に比べて小中学校演劇用の脚本集、手引き書が貧弱だったので、この二年間 小中学

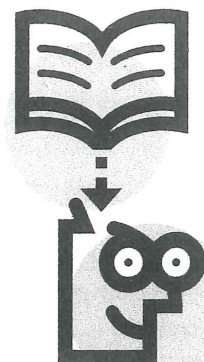
校用の図書を優先購入してもらいかなり充実してきたのでこれに比例して利用が増加している。

来室される小中学校の先生は学校で演劇部や学芸会を指導しなくてはならなくなり、途方にくれているとき演劇資料室のことを聞き駆け込んだという例が幾つもある。

高校生からの相談も多様だが、ひとつ気になることがある。演劇資料室の相談機能は芝居造りをどのように進めてゆくか考えるヒントを提供することにあると思うのだが、高校生は考えるプロセスを省いて結果だけを求める風潮があることが気がかりである。

電話相談の例だが、ある高校生の質問「高校演劇全国大会で優勝する必勝パターンがあると思うが教えて欲しい」全国2300校から選抜された全国大会の水準は高く優勝が至難であることは野球の甲子園と同じで、泥まみれの練習をかさねてないで楽に優勝できる忍術虎の巻はないと説明したが、容易に納得せず、結局その高校生は納得せず電話を切った。

「芝居を甘く見るなよ」と言いたかったが、伝わらないなと思い留まった。(荒井)



県演連フェスティバル日程

詳しくは各劇団のちらしをどうぞ!

| 劇団名 | 作品名 | 作・演出 | 会場 | 日程 |
|-------------|---|--------------------|----------------------|--|
| G/9-Project | マジシャン(MAGICAIN) | 仲尾玲二 | ST スポット | 10月13日(土)14:00&19:00 14日(日)14:00 |
| 劇団ひこばえ | Cidada | 熊手竜久馬 | 青少年センター・多目的 プラザ | 10月14日(日)13:00、16:30 |
| 劇団川崎演劇塾 | 八月のシャハラザード | 作/高橋いさを 演出/渡辺綱男 | 青少年センター・多目的 プラザ | 10月19日(金)19:30 20日(土)14:00、19:00、 21日(日)14:00 |
| 劇団こゆるぎ座 | 小田原藩望郷 又左衛門切腹 | 作/後藤翔如 演出/楠田正宏 | 小田原市民会館大ホール | 10月20日(土)18:00 21日(日)13:00 |
| 劇団ささく座 | しんしゃく源氏物語 一心の想いは 未来を開く一 | 作/榊原政常 演出/高橋行恵 | 青少年センター・多目的 プラザ | 10月27日(土)18:00 21日(日)14:00 |
| 劇団麦の会 | 祝! 還暦記念公演 第④回☆麦畑☆秋の大収穫祭 ～登って昇って紅葉坂～ | | 青少年センター・多目的 プラザ | 11月3日(土)15:00&19:00 4日(日)13:00&16:00 |
| 劇団蒼い群 | 創立35周年記念有終乃弾 煙が目にしみる | 作/堤泰之 演出/福本幸男 | 横須賀市立青少年会館 | 11月10日(土)18:30 11日(日)13:00 |
| 劇団かに座 | 海と日傘 | 作/松田正隆 演出/田辺晴通 | 関内ホール・小ホール | 11月16日(金)19:00 17日(土)14:00&19:00 18日(日)14:00 |
| 劇団「横綱チュチュ」 | WHITE DOLL 一夕日は朝日のように美しい一 | 作/菱倉あゆみ 演出/団のぼる | 杉田劇場 | 11月23日(金)13:00&18:00 24日(土)11:00&15:00 |
| 京浜協同劇団 | 木下順二追悼公演 巨匠(きよしよう) | 作/木下順二 演出/細田寿郎 | スペース京浜 | 11月23日(金)14:00&19:00 24日(土)14:00&19:00 25日(日)14:00 30日(金)14:00&19:00 12月1日(土)14:00 |
| 劇団河童座 | わしゃ 喰っちゃらん | 横田和弘 | 横須賀市立青少年会館 相鉄本多劇場 | 12月1日(土)14:00 2日(日)14:00 12月14日(金)19:00 15日(土)14:00&17:00 16日(日)14:00 |
| 劇団葡萄座 | 11ぴきのネコ | 作/井上ひさし 演出/山本伸二 | テアトルフォンテ | 12月8日(土)14:00&18:30 9日(日)14:00 |
| 劇団蒼生樹 | 第52回公演 吉例歳忘れ興行 からくり栗エ門 | 濱田重行 | 県立青少年センター・ホ ール | 12月21日(金)19:00 22日(土)14:00 23日(日)14:00 |